

平成28年10月 日

え……笑顔一杯 が……学校大好き わ……わたしたち

江川小だより

北九州市立江川小学校

〒808-0134 若松区大字乙丸5番地

TEL 093-741-1004

校長 占部 啓子

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

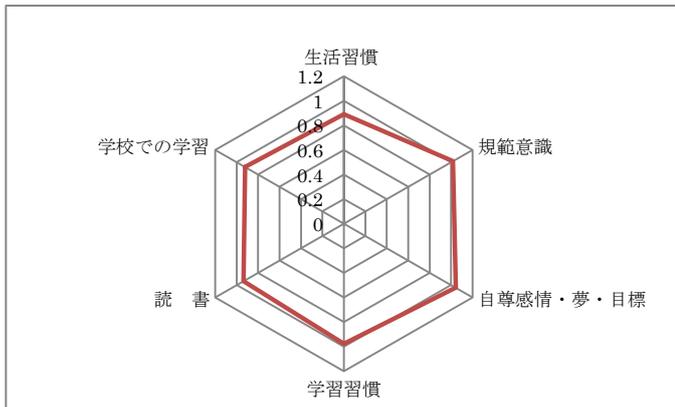
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることにはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	収集した事柄の整理や人物像の読み取りはできている。漢字やローマ字は、実生活や他教科等の学習における使用も含め、確実に習得させるよう、指導を充実させる。	下回っている
国語B	文章の読み方、書き方を中心とした活用する力に課題がある。資料を基に考えを書いたり、文章全体の構成の効果を考えたりする力を付けていく必要がある。	下回っている
算数A	計算力については、取組の成果が少しずつでている。繰り下がりのある減法、図で表した割合(百分率)、少数の意味と大小、図形の問題などに課題があった。	下回っている
算数B	変形させた図形の面積について、言葉と式で説明する問題は、できている。情報を基に立式したり、読み取れないことを特定したり、式の意味を解釈したり、理由を記述したりする問題に課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

話し合い活動や書く活動に苦手意識をもつ児童がいるので、充実させていく。振り返る活動は、高学年を中心に取り組む割合が高くなってきた。総合的な学習の時間の学習活動の見直しをはじめ、児童が主体的に学習に取り組む力を身に付けさせていく。①自尊感情が高い。②将来の夢や目標をもっている。③人の役に立つ人間になりたい。このような高い志をもって、将来に向かって生きていこうとする児童が多いので、よさを生かした指導をしていく。読書への興味や十分に費やす時間、図書館の利用頻度は、全国平均に比べ若干低いが、30分以上費やす児童を含めると全国平均並みである。複数の本を比べて読むなどの機会を設定する必要がある。就寝時刻は、全国平均に比べ若干、不規則な傾向があるが、起床時刻は、規則正しい。家庭学習の時間や計画性は、全国平均に近付いてきた。宿題を確実にしている児童の割合は高いので、自主的な家庭学習にも取り組めるよう一層の意欲付けや家庭との連携をしていく。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

学習支援、児童支援、担任外、教務主任などが、朝自習の時間や授業時間、放課後、日常の隙間の時間などに個別の支援にあたる。学年会で共通理解をしながら、話し合い活動や書く活動、振り返る活動を充実させたり、計画的に読書案内などに取り組んだりする。また、実生活や他教科等の学習における使用も含め、漢字やローマ字を確実に習得させる。資料から読み取ったことを根拠に理由を記述したり、文章全体の構成の効果を考えたりする力を付けていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学力・体力に関する本校児童の実態や指導の方向性について、通信を発行したり、懇談会などで周知したりすることで、保護者との共通理解を図り、主体的な家庭生活習慣の定着（1年生10～20分、2年生20～30分、3年生30～40分、4年生40～50分、5・6年生1時間以上）に努める。